

平成28年度 研究紀要

基礎的・基本的な内容を確実に 身に付けた生徒の育成

～振り返り学習を取り入れた学習指導を通して～



沼田市立薄根中学校



目 次

I 研究の概要

1	研究主題	1
2	主題設定の理由	1
3	研究のねらい	1
4	研究の内容・方法	2
5	研究の組織	2
6	研究の構想	3
7	研究のあゆみ	4

II 各教科の実践

実践1	国語科	6
実践2	社会科	10
実践3	数学科	16
実践4	理 科	20
実践5	英語科	23
実践6	音楽科	27
実践7	保健体育科	29

III 研究の成果と課題

1	研究の成果	32
2	研究の課題と解決に向けての取り組み	33
資料1	各教科における目指す生徒像及び振り返り活動	
資料2	一人一授業「今年度の授業の成果と課題、来年度への改善策」	
資料3	家庭学習習慣の定着に向けて・・・学習の手引き	

I 研究の概要



1 研究主題

基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成 ～振り返り学習を取り入れた学習指導を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 学校の教育目標とのかかわり

本校の学校教育目標は、「知性に富み、たくましく、豊かな人間性を育てる教育を推進し、自ら考え、正しく判断し、実践できる生徒を育成する」である。具体目標を「英知（自ら学び、知性を磨く創造性豊かな生徒）」「健康（自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒）」「友愛（自らに厳しく、思いやりのある、明るく礼儀正しい生活）」としている。本年度の学校経営方針の重点の一つに、「確かな学力の定着」を掲げている。学習指導要領総則にも記されているように、振り返り学習は全ての教科で重点的に取り組むべき課題でもある。振り返り学習に視点を当てた校内研修を積み重ねて行くことにより、「英知」の具現化を図り、基礎的・基本的な内容を確実に身につけた生徒の育成を目指す。

(2) 生徒の実態とのかかわり

生徒の実態として「授業に集中して取り組めるが、前時の内容が十分に身につかず忘れてしまう生徒もいる」ことがある。一時間の授業内容をより確かに身につけ、次の時間の学びにつなげられるよう、振り返り学習を取り入れていくことが必要であると考えます。

(3) 昨年度までの研修とのかかわり

昨年度まで、「根拠や理由を明確にする言語活動の工夫」を取り入れた授業実践を行い、一定の成果を上げてきた。グループでの学び合いなどを積極的に取り入れた授業実践が行われた。その中で、友達やグループの意見をそのまま書いてしまう生徒も見られた。そこで本年度は生徒一人一人の学びの質を高め、確かな学力が定着できるよう、「振り返り学習」に視点を当てて取り組んでいく。

(4) 教職員の指導の在り方とのかかわり

教職員の授業力の向上は群馬県をはじめ、全国の学校共通の重点項目とも言える。指導力の向上のためには、自分以外の授業の参観と授業研究会が効果的である。参観を通してこれまで自分になかった視点を取り入れることや、指導方法だけでなく生徒とのかかわり方など学べることは多い。本校はこれまでも代表授業をはじめ一人一授業を実践してきたが、今年度もこれを継続し、互いに授業を見合う中で指導力を向上させていきたい。また、ねらいを明示し単位時間の中で確実に振り返り学習を行うことで、教師が生徒の実態を見取ることができる機会も増える。実態を授業にフィードバックしていくことで生徒にとって分かりやすい授業づくりを目指す。

3 研究のねらい

課題解決的な学習において、学んだ内容を生徒自らの言葉でまとめる振り返り学習を行うことにより、基礎的・基本的な内容を確実に身につけた生徒を育成する。

4 研究の内容・方法

①課題解決的な学習過程における実践

ステップ①…身に付けたい、伸ばしたい資質や能力を明確にする。

(ねらい・到達点を示す)

ステップ②…授業の中に、学んだ内容を生徒個人が、自身の言葉でまとめる振り返り学習を意図的に設定する。

ステップ③…教師は生徒のまとめた内容をもとに、次の授業へフィードバックする。

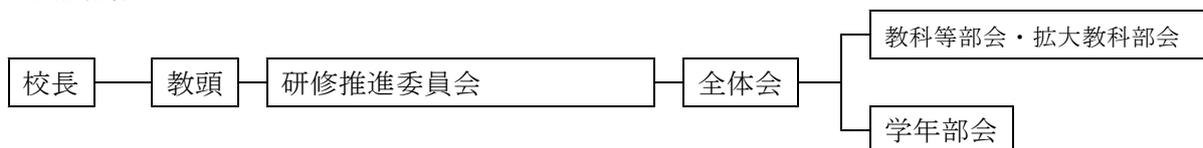
②ねらいが達成されたか、実践を通して検証する。(授業実践：手立ての検証、教科等部会において、一度目で課題を見つけ二度目で改善した授業をし、ねらいの達成につなげる。)

③学力検査や調査の問題傾向の周知、結果の分析を生かした授業や指導計画の改善に努める。

④学習の手引きを配付し、家庭学習における学習の習慣が身に付くようにする。

⑤授業改善の視点を明確にして、拡大教科部会を中心として指導案検討会・授業研究会を行う。

5 研修組織



教科等部会		学年部会 (道徳・総合・学活)	
国語部会	西本、武捨	1 学年部会	西本、上山、宮内、坂本
社会科部会	宮内、遠峯	2 学年部会	篠崎、内田、武捨、岩崎
数学部会	見城、上山	3 学年部会	藤井、鈴木、遠峯、見城
理科部会	内田、鈴木広	拡大教科部会	
英語部会	藤井輝、坂本	部会①(国語・社会部会)	
技能教科部会	篠崎、岩崎、	部会②(数学・英語部会)	
道徳・総合・ 特活部会	道徳主任 (遠峯)、総合主任 (鈴木)、 特活主任 (武捨)、 養護 (倉澤)	部会③(理科・体育・音楽部会)	

(1) 教科等部会・拡大教科部会

- ・問題解決的な授業展開や効果的な振り返り学習について追究する。
- ・授業実践を計画的・効果的に行う。(授業実践)
- ・家庭学習の仕方について工夫する。「学習の手引き」の充実・課題の工夫等

(2) 学年部会

- ・学びあえる学年・学級づくり、学習集団作りに努め、道徳・総合・学活等の実践を行う。(道徳教育推進教師、人権教育主任・生徒指導主事・S Cとの連携)
- ・家庭学習への取り組みを指導し定着化を図る。「学習の手引き」の活用、宿題ノート)
- ・学年の時間を効果的に活用する。(自主学習への取り組み指導 補充学習及び学び合い)
- ・規則正しい生活習慣を身に付けさせる。(養護教諭との連携)

6 研究の構想

H28年度 沼田市立薄根中学校 校内研修研究構想図

学校教育目標

知性に富み、たくましく、豊かな人間性を育てる教育を推進し、自ら考え、正しく判断し、実践できる生徒の育成に努める。

- 英知…自ら学び、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 健康…自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒
- 友愛…自らに厳しく、思いやりのある、明るく礼儀正しい生徒

〔研究主題〕

基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成

振り返り学習を取り入れた学習指導を通して

● **目指す生徒像・言語活動の確認**

目指す生徒像

- 既習の知識・技能を活用し、主体的に事象の考察や課題解決を行ったり、考察結果や解決過程を筋道立てて説明したりする活動を通して、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒

● **課題解決的な学習過程における実践**

身に付けさせたい資質や能力を示し、根拠や理由を明確にする。課題解決的な学習を計画し、授業のねらいや生徒の到達点を示す。

● **振り返り学習を取り入れた学習活動**

授業の中に、学んだ内容を生徒個人が、自信の言葉でまとめる振り返り学習を意図的に設定する。教師は生徒のまとめた内容をもとに、次の授業へフィードバックする。

● **一人一授業の推進**

ねらいの達成を、実践を通して検証する。(手立ての検証、教科等部会において、指導案検討会・授業研究会を充実し、ねらいの達成につなげる。)

教科経営の充実

授業改善

- 教科等部会・拡大教科部会
- 一人一授業実践
- 授業研究会（教科間の交流）

学習の手引きの活用
授業への取り組みの充実
家庭学習の充実

学年・学級経営の充実

- 学び合える学年・学級づくり
- 規則正しい生活習慣の確立

各学年の取り組み

7 研究のあゆみ

学期	主 な 研 修 内 容
1	<p>〔研究と計画〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研修推進委員会：今年度の研修についての見通し ○研修主題の設定、研修内容と方法の検討、組織づくり ○学力テストの分析結果の検討、生徒の実態把握 ○各教科部会による手立ての検討 ○「学習の手引き」の配付 <p>〔実 践〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○授業実践「縄文時代と弥生時代の生活・社会の違い」（1年社会：宮内教諭） ○指導主事訪問A 各教諭
2	<ul style="list-style-type: none"> ○研修推進委員会：2学期の研修の見通し ○研修内容の実践・検証 <p>〔実 践〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○校内授業研究会①「関係を表す式」（1年数学：上山教諭） ○校内授業研究会②「合力・分力」（3年理科：鈴木教諭） ○授業実践「和歌の世界」（3年国語：西本教諭） ○授業実践「気体の性質」（1年理科：内田教諭） ○授業実践「身のまわりの物質」（1年理科：内田教諭） ○授業実践「1次関数」（2年数学：見城教諭） ○授業実践「書写」（2年国語：武捨教諭） ○授業実践「プログラム7」（3年英語：藤井教諭） ○指導主事訪問B「価格の働きと金融」（3年社会：遠峯教諭） ○授業実践「プログラム8」（1年英語：坂本教諭） ○授業実践「箏に親しむ～さくらさくら～」（1年音楽：岩崎教諭） ○授業実践「自然災害による傷害の防止」（2年保健体育：篠崎教諭） <p>〔講 習〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○救急救命講習 中央消防署
3	<ul style="list-style-type: none"> ○研修推進委員会：今年度の研修の反省と次年度の研修の見通し <p>〔まとめ〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○研究紀要の執筆・編集 <ul style="list-style-type: none"> ○研修推進委員会：今年度の研修の反省と次年度の研修の見通し ○今年度の研修の成果と課題の検討 ○次年度の研修主題の検討 <p>〔報 告〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳研修「道徳教育指導者養成研修より」（遠峯教諭） <p>〔研修会〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育支援研修会 「支援を要する生徒の理解と対応」 講師 薄根中学校スクールカウンセラー 阿佐見 康成

Ⅱ 各教科の実践



実践1 国語科

1 ねらいに迫るための手立て

国語科では、今年度の研修主題「基礎的・基本的な内容を身に付けた生徒の育成～振り返り学習を取り入れた学習指導を通して～」を受け、以下のような活動を振り返り学習と捉え研修を進めてきた。

- ① その日の学習内容を次時にどのように活かすかを、自分の言葉で書いたり話したりする。
- ② 自分の考えをレポートや作文に書き表す。また、自分の言葉でスピーチしたり討論したりする。
- ③ 獲得した知識などから、興味関心を広げたり自分の表現に活かす方法を考えたりする。

①～③のような活動を振り返り学習としたのは、振り返りを単なる復習と捉えず必要感を持った積極的な活動を設定することで、確実な学習内容の定着を図り、さらに学習内容を深めていく足がかりとしたいと考えたからである。また、今年度は、振り返り学習を中心とした校内研修の1年目である。そのため、様々な形の振り返りを行っていくことで、年度当初に設定した国語科における振り返り学習の定義も見直していきたいと考えた。

2 実践例

実践1

① 単元名「和歌の世界（万葉集・古今和歌集・新古今和歌集）」（3年）

② 目 標

和歌の形式や表現の特徴について捉え、その効果について理解することができる。

③ 校内研修とのかかわり

本時の学習内容は表現の特徴についてが中心である。そのため、それが理解できたかどうかを見取る手段として、また、ねらいに達していない生徒のための手立てを考えていくために、①の振り返りを設定した。

④ 展 開

過程	学 習 活 動	時間	学習の支援及び留意事項
つ か む	○前時の学習について簡単に振り返る。 【振り返り学習①—既習事項を本時に活かすための振り返り】 ○本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">和歌の形式や表現の特徴を捉え、その効果について理解する</div>	5	・前時に書いた鑑賞文を読み返し、鑑賞の視点について確認する。 ・基本的な技法について全体で確認する。 (掛詞、序詞、枕詞)
解	○百人一首の中から鑑賞したい一首を選び、選んだ理由を書く。	10	・選ぶことに時間が掛かるので、鑑賞する一首については、前時に選んでおくか宿題で選ばせておく。 ・選んだ理由は具体的なことではなく、感じたことで書くよう助言する。
	○選んだ理由が伝わるような、形式や表現の特徴を探す。		・必ず一つ以上は探させる。 ・教科書の技法の部分などを参考にしよう助言す

決 す	<p>「予想される生徒の反応」</p> <p>①形式や表現の特徴には、どのようなものがあるのか理解できておらず、探すことができない。</p> <p>②形式や表現の特徴と選んだ理由を、結びつけることができない。</p> <p>③選んだ理由にあった形式や表現の特徴を探しだしている。</p>	10	<p>る。</p> <p>【評価項目】 おおむね○、十分◎</p> <p>○選んだ理由にあった形式や表現の特徴を探しだしている</p> <p>◎選んだ理由により合うように、形式や表現の特徴と時代背景や作者のことなどを結びつけ、考えを広げている (ワークシート)</p>
る	<p>○グループで、選んだ理由と探した形式や表現の特徴発表し合い、それについてアドバイスをし合う。</p> <p>【振り返り学習②一本時の学習目標を達成するための振り返り】</p> <p>『グループ学習の流れ』</p> <p>①選んだ理由と探した形式や表現の特徴を発表する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>②友だちからアドバイスをもらう。</p> <p>【アドバイスの視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・付け足せることはないか。 ・見落としている形式や表現の特徴はないか ・理由と探したことが合っているか。 <p>※これをひとりずつ順番に行う。最大で6名のグループなので一人3分程度、余った時間は自由に意見のやりとりをさせる。</p>	20	<p>・予想される生徒の反応に対して、振り返り学習を活用しながら支援する。</p> <p>《生徒の反応に対する支援》</p> <p>「①の生徒に対して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表の中で自分に似たものを探すよう助言し、参考にさせる。 <p>「②の生徒に対して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技法についてのワークシートなどを参考にしよう助言する。また、友だちの発表で参考にできる事がないか探すよう助言する。 <p>「③の生徒に対して」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形式や表現の特徴の他に、理由と関連づけられるような事柄がないか探させる。 <p>《振り返り学習を通して》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの前で発表することで、自分の探したものが内容に合っているか確認し、アドバイスをもらうことで足りない部分などを補う。 ・形式や表現の特徴で見落としている部分がないかや、その効果として間違っていて理解していることがないかなどを確認する。また、間違っていた場合は修正する。
ま と め	<p>○探し出した形式や表現の特徴の中で、特に鑑賞の中心としたいことを書く。</p> <p>【振り返り③一次時の学習に活かすための本時の学習内容についての振り返り】</p> <p>○次時の予告を聞く。</p>	5	<p>・時間があれば数名に書いたことを発表させる。</p> <p>・次時は、本時に探したことと選んだ理由を結びつけて鑑賞文を書くことを知らせる。</p>

実践 2

① 単元名「行書で書こう（点画の省略と筆順の変化）「開花」（2年）

② 目 標

筆順の変化を理解し、筆脈を意識して書くことができる。

③ 校内研修とのかかわり

本時の学習内容は行書の筆順の変化や筆脈を理解して書くことが中心である。そのため、前時までに習った行書の書き方の特徴を覚えているか見取る手段として、また、ねらいに達していない生徒のための手立てを考えていくために、①の振り返りを設定した。

④ 展 開

	学習活動	時間	支援・指導上の留意点
つ か む	○ 前時までの学習を振り返る 【振り返り学習① 既習事項を 本時に活かすための振り返り】 ○ 本時のめあてを確認する	10	・手本に書いたメモや、振り返りシートを見ながら、 ・筆順の変化 ・連続 ・字形の変化 ・柔らかい、曲線の字 ・点画の省略 などを振り返らせる。 ・振り返りシートの「自分のめあて」欄に今日のめあてを書かせる。
深 め る	○ つながりを意識して書く。 【予想される生徒の反応】 ①つながり意識して書くことができない。 ②つながり意識して書くことができるが、字形が整っていない。 ③つながり意識し、字形を整えて書くことができている。	25	・3枚書かせる。 ・お手本に書いた筆順を確認しながら、「次につなげる気持ち（筆脈）」を意識して書くよう助言する。 ・1枚書くたび、隣同士でアドバイスさせる。 ・もらったアドバイスは、赤ペンで半紙に書き込ませる。 《生徒の反応に対する支援》 ①の生徒に対して 筆順を確認させ、次の画まで繋げて書くような気持ちで書いてみるよう助言する。 ②の生徒に対して 筆の入れ方や、穂先の使い方を実際に書きながら説明し、字形を整えて書くよう助言する。 ③の生徒に対して 字の大きさや字と字の間隔、全体のバランスに注意して書けるよう助言する。
ま と め	○ 本時のまとめをする。 【振り返り②次時の学習に活かすための、本時の学習の振り返	15	・今日意識した「つながり」に気をつけて、一枚清書を書かせる。 ・最後に、一番上手にできた作品を提出させる。

り】

○片付けをする。

(清書の作品でなくても構わないこととする)

⑤ 実践を終えて

振り返りの定義があまりはっきりしておらず、試してみるために多くの場面に設定してみた。効果的な振り返りをするためには、数をやればよいのではなく、めあてに対しての振り返りがあれば良いのだということがわかった。

3 実践の成果

- 振り返り学習を序盤に取り入れた学習過程を展開したことで、この時間に身につけたい力がはっきりした。
- 単位時間ごとのつながりができた。身につけたことが活かしていけることで、次の活動の予想ができるようになった。

4 今後の課題

- 中間の振り返りは必要なかった。振り返りにはならず、主な学習活動であったので、今後は定義をはっきりさせて効果を見ていく必要がある。
- 振り返りの形としてグループでの話し合いなどもある。そのため、そういった話し合いのスキルなどの基本的事項を定着させていくことが課題である。

実践2 社会科

1 ねらいに迫るための手立て

社会科では、CRTの結果から、資料を通して社会的な事象を総合的にとらえることが十分でないことが分かった。そこで「資料をもとに読み取り考えたことを、わかりやすく言葉や図表を使って振り返ること」ができることを掲げた。分かったこと・できるようになったことを表現させる振り返り学習を活用して「様々な社会的な事象を組み合わせる自分の意見・考えをもてる生徒」の育成を目指してきた。

具体的には、問題解決的な学習の学習過程の中で、生徒が個々で資料を読み取ったり、課題に関する調べ学習をしたり、グラフの作図作業することで内容を理解することを基本としてきた。さらに自分の考えを確認したり、アドバイスをもらうためにグループで考えを出し合う表現活動をする事によって考察・判断した結果を自分の言葉で表現したり、習得した知識、概念や技能を活用して社会的な事象について考えたことを説明したり自分の考えをまとめて論述したりする。最終的には、公民的資質を身に付けた生徒を育成することを目標にしてきた。こうした学習を通して、知識・技能の定着を図るとともに、思考・判断・表現力を高めていきたいと考え事業の最後に振り返り学習を行ってきた。

2 実践例

実践1

① 単元名

第2章 古代までの日本 2節 日本列島の誕生と大陸との交流 縄文時代・弥生時代の文化

② 目標

縄文時代と弥生時代の生活・社会の違いを調べ、縄文社会がどのように変化していったかを考える。

③ 校内研修との関わり

本単元は「文化」の学習であり、その文化の背景を多面的多角的に調べ考察すると共に、比較することで文化がどのように変化してきたかを学習することができる。縄文・弥生2つの時代の特徴を共通するものと異なるもので調べ表にすることでそれぞれの時代を体感でき、自分自身の言葉を使い表現することもできる。さらに授業の最初に提示するめあてに対して、本時のめあてやねらいを振り返らせる授業構成や支援を考えていければ、校内研修の内容に関連深い内容となり、生徒1人1人の理解度を確認することができる。

④ 授業の概要

【指導計画】・・・2時間

第2章 古代までの日本 2節 日本列島の誕生と大陸との交流

①日本列島の誕生と縄文文化…○日本列島における旧石器時代の人々の生活の様子を具体的に捉える。○縄文時代の人々の生活の様子を、考古学の成果を活用しながら具体的に理解する。

②弥生文化と邪馬台国…○弥生時代の人々の生活を、考古学の成果を活用しながら具体的に理解する。○日本国家が形成されていく過程のあらましを、東アジアとの関わりを通して捉える。

【本時の学習】

(1) ねらい

縄文時代と弥生時代の生活・社会の違いを調べ、縄文社会がどのように変化していったかを考える。

(2) 授業記録

Ⅶ 本時の学習

(1) 目 標 (ねらい)

【縄文時代と弥生時代の生活・社会の違いをつかみ、縄文社会がどのように変化していったかを考える。】

(2) 準 備 <教師>パソコン、プロジェクター、学習シート

<生徒>教科書、資料集、用語集

(3) 展 開

時 間	学 習 活 動	支 援・指 導 上 の 留 意 点 ※努力を要する生徒への指導の手だて ○おおむね満足 of 生徒への指導の手だて
↑ 5 ↓	<p>1 二つの絵を見て考える。 ◇どちらが縄文人？弥生人？ どんな特徴が有るだろう？ <A>縄文人弥生人</p>	<p>◆二つの顔の違いや特徴について、生徒が思いつくことをなるべく多く発表させる。 ◆顔の作りの違いに気づかせ、なぜこのように違うのか簡単に考えさせる。 ◆他者の顔に関してからかうことのないよう注意する。</p>
	<p>課題 縄文時代と弥生時代の生活・社会の違いをつかみ、縄文社会がどのように変化していったのか。</p>	
↑ 15 ↓	<p>2 二つの時代の生活の違いを考える。 ◇二つの時代の違いを配布したプリントの表に下の括弧に埋める言葉以外にさらに詳しく調べてみよう。 ① (新石器) 時代 ② (縄文) 土器 ③ (弥生) 土器 ④ (たて穴) 住居 ⑤ (貝) 塚 ⑥ (高床) 倉庫 ⑦ (作物) を貯蔵 ◇その他学習シートに関する項目について記入する。 3 縄文社会はどのように変化</p>	<p>◆教科書、資料集、用語集、地図帳を参考に調べさせたい。 ◆プリントを配布し縄文時代と弥生時代の違いを調べさせる。 ◆なるべく時間を取り、詳しく調べさせたい。 ◆生活と社会の違いが分からない生徒には、教科書や資料集の参考になる場所を指示して巡視する。 ◆自分の力で調べるように指示するが、困ったときには近くの生徒に教えてもらってもよいことにする。ただし、見せてもらうのではなく調べる場所を教えてもらうよう指示する。 ◆縄文時代、弥生時代を比較しながら土器名やその特徴、労働や生活、道具・武器などを調べる。 ◆⑦の作物は米でかまわないので、細かい内容は省くようにする。 ◆縄文時代と弥生時代の違いを発表した生徒が随時黒板に記入で</p>
↑ 15	<p>してきたのか。弥生人はどこから来たのか。意見を出し合い話し合う</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A:縄文時代と弥生時代の土器名とその特徴・労働や生活・道具・武器など教科書や資料集から調べまとめるとともに、縄文時代がどのように変化してきたか考えている。</p> </div>	<p>きるようにしたい。 ◆他の生徒が発表し記入した事項で、自分とは違う事柄は赤で自分の学習シートに記入するよう指示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>A:○縄文時代と弥生時代の違いを調べることができ、理解できているので調べたことを振り返ると共になぜ縄文時代は行き詰まったのか、次の課題を考えさせたい。</p> </div>

↓	B: 縄文時代と弥生時代のそれぞれの違いについて調べまとめることができる。	B: ○縄文時代と弥生時代の違いについて調べることができるので、さらに定着できるように振り返ると共に調べ忘れていないか確認させる。
	C: 縄文時代と弥生時代の違いについて部分的に調べまとめることはできる。	C: ※部分的に縄文時代と弥生時代の違いが調べられているので、教科書や資料集の関連することを指示したり、他の生徒からどの資料のどこを見たら調べられるかを聞いたり確かめさせたい。
↑	4 縄文時代と弥生時代の違いについて振り返り、縄文時代がどのように変化してきたか話し合う。	◆本時で生徒が調べた縄文時代と弥生時代の違いについて振り返る。 ◆なるべく自分の言葉でまとめた内容を発表させたい。
10	5 振り返り学習 ◇本時で学習して分かったことを振り返る。 ・チェックテストで確かめる。	◆本時の学習の習得状況を確認する。時間がない場合は、割愛する。 ◆答え合わせができない場合は、次の始めに答え合わせをする。
↓	評価項目(観点・方法) (社会的思考判断表現) ○おおむね満足 ◎十分満足 ○水田農耕の広まりによる人々の生活の変化を考えている。 ◎縄文時代と弥生時代の生活・社会の違いをつかみ、どのように縄文社会は変化してきたのかを考える。	

⑤ 実践を終えて

- ・プロジェクターを使うことで導入の仕方やめあての提示などが工夫できた。
- ・支援の仕方としては、学習することが明確だったため生徒が意欲的に調べていたが、めあてをしっかりと確認してから作業に入れるとよかった。
- ・ワークシートの作りは、生徒が自分で調べたことをたくさん書けたのは良かったが、1人1人が調べると時間がかかり、あまり調べられない生徒がいたので、分担して調べる方法をとることも検討したい。
- ・ポイントの言葉について、全員が共通して記入できるようになっていて良かった。
- ・振り返りの時間がしっかり確保できたが、生徒の発表は口頭だと数名だけに限られてしまうため、他の方法でも良い。
- ・振り返り像を明確にし形式を工夫していくとともに、全員をどう見取るかという視点を必ず持つ。

実践2

① 単元名 「価格の働きと金融」

② 目 標

- ① 市場経済の基本的な考え方や価格の決め方・役割、金融の働きのあらましを理解させる。
- ② 融の働きや職業の意義、雇用問題などについて関心を持たせ、経済活動や社会生活における影響や役割について考えさせる。

ねらい 市場経済の基本的な考え方について、身近で具体的な事例を通して理解する。

③ 校内研修との関わり

今年度『基礎的・基本的な内容を確実に身につけた生徒の育成～振り返り学習を取り入れた学習指導を通して～』をテーマとして校内研修に取り組んできた。社会科ではC R Tの結果から、資料活用を通して社会的な事象を総合的にとらえることが十分ではないことがわかった。そこで「資料をもとに読み取り考えたことを、わかりやすく言葉や図表を使って振り返ること」ができることを目指す生徒像に掲げた。分かったこと・できるようになったことを表現させる振り返り学習を活用して「様々な社会的な事象を組み合わせる自分の意見・考えをもてる生徒」の育成を目指している。

④ 授業の概要

(1) 本時の目標 市場経済の基本的な考え方について、身近で具体的な事例を通して理解する。

(2) 準備 教師 教科書、資料集、用語事典、ワークシート

スライド（パワーポイント資料）、電子黒板

生徒 教科書、ノート、資料集、用語事典

(3) 展開

学習活動	時間	生徒の活動	活動への支援
1、価格と生産量が密接に関わっていることをキャベツを例に学習する。	5	<p>○キャベツがとれすぎると、農家の人がキャベツを捨てるのはなぜかを予想し、ワークシートに記入する。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャベツの値段が安いから。 ・売っても元が取れないから。 	<p>○収穫されたキャベツが捨てられたり、トラクターで廃棄されている事実を提示する。</p> <p>○どの予想も正解であることを伝える。</p> <p>○生産量と価格の関係について調べていくことを伝える。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> キャベツが廃棄される経済的な理由を考えよう。 </div>			
2 需要と供給の関係で商品の価格が決まることをきゅうりの入荷量と価格の関係から学習する。	30	<p>○「きゅうりの入荷量と価格の動き」のグラフを作成する。</p> <p>○「きゅうりの入荷量と価格の動き」のグラフから気づいたことを記入する。</p> <p><予想される反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入荷量が少ないときは、価格が高く、入荷量が多いときは価格 	<p>○ワークシートに作成させる。</p> <p>○グラフの読み取りやグラフ作成を容易にするために、見本を示しながら作成・読み取りを行わせる。</p> <p>○グラフの作成やグラフの読み取りについては、ペア学習を取り入れ教え合いながら取り組ませる。</p> <p>○入荷量と価格の動きについて考察させる際には、はじめは個人で考えさせる。その後グループで意見交流させながら入荷量と価格が相反する相関関係であることを気づかせる。</p> <p>○グループ活動では、司会・発表等役割分担をさせて行わせる。</p>

	<p>が低い。</p> <p>・入荷量と価格が反対の動きをする。</p> <p>○新しい用語・関係を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「入荷量→供給量」 ・「消費量→需要量」 ・「供給過剰は価格が下がる」 ・「供給不足は価格が上がる」 	<p>○考察した結果をホワイトボードに記入させ、黒板に貼らせる。</p> <p>○「入荷量が多いときは、価格が下がる」「入荷量が少ないときは価格が上がる」ことに生徒の気づきを整理する。</p> <p>○需要量と供給量といった用語や需給ギャップが価格の変動を起こす関係をワークシートにまとめさせる。</p>
<p>3「出荷されることなく放置されたキャベツ」の放置された理由を需要と供給の関係から考える。</p> <p>【振り返り学習】 個人</p>	<p>○供給量と需要量の関係から収穫されずにキャベツが廃棄される理由を考察する。</p> <p><予想される反応></p> <p>Aキャベツがとれすぎると、供給量が需要量を越える供給過剰になる。そのため価格は下がる。キャベツを売っても安すぎて赤字になるので畑の肥料にするために、キャベツを廃棄したり、つぶしたりしている。</p> <p>15 Bキャベツがとれすぎると、供給量が需要量が越える供給過剰になる。そのため価格は下がる。</p> <p>Cキャベツを売っても元が取れないので捨てたり、つぶしたりしている。</p>	<p>○ワークシートに各自の考えを書かせる。</p> <p>A取れすぎた状態が供給過剰であると考えられた点や農家の立場に立って苦渋の選択をしている状況を理解できた点を賞賛し、廃棄する以外に方法はないか考えるように助言する。</p> <p>B取れすぎた状態が供給過剰であり、供給過剰は値段が下がることが理解できたことを賞賛し、売っても赤字になるくらいならどのような行動を取ることが良いのかキャベツを売る農家の立場になって考えるように助言する。</p> <p>C売っても元が取れないという農家の立場に立った状況が理解できたことを賞賛し、需要量と供給量がどのような関係になっているのか授業で学んだ言葉や関係を活用しながら説明するように助言する。</p> <p>○発表の途中で、需要と供給がそ</p>

<p>4「出荷されることなく放置されたキャベツ」の放置された理由の発表を聞く。</p> <p>【振り返り学習】 集団</p>	<p>○収穫されずにキャベツが廃棄される理由を聞き合い、供給と需要の関係が及ぼす生産行動について理解する。</p>	<p>れぞれ何であるのか、需要と供給のどちらが大きいのか、供給過剰・供給不足のどちらになっているのか、価格はどうなっていくのか等発表で足りない部分があれば発表を補足し、需要と供給の関係が生産行動に大きく影響を受けていることに気づかせる。</p>
<p>【社会的事象についての知識・理解】（観察・ワークシート）</p> <p>○市場経済の仕組みや価格の決定について理解している。</p> <p>◎市場経済の仕組みや価格の決定について理解し、その知識を身につけている。</p>		

3 実践の成果

- 指導主事訪問Bの社会科研究授業で、学習した需要と供給の学習から作りすぎたキャベツを廃棄する社会的事象を説明させる学習活動は有効であることが分かった。
- 本時で学習した需要と供給の関係だけでは解決できない内容も含まれていたため、授業構想を立てる際に見通しを立てる活動と振り返る活動の内容が対になるように指導することが大切であることが分かった。

4 今後の課題

- 振り返り学習は、学習内容について知識・理解を振り返れば良いと考えていたが、授業から何が分かったか、ねらいを振り返るための方策や学習活動をしていく必要がある。
- 活動と課題を両方掲げ、生徒に学習方法の見通し、結果の見通しをもたせ、終末で課題について考えさせる振り返り学習をしていく必要がある。
- めあて、見通し、振り返り学習をセットで実施する必要がある。
- 読み取らせたい事柄を明確にした資料を提示することで、実感の伴った理解が予想されるので、振り返り学習を行うことで多面的な思考を持って確実に身に付く学習ができると考えられる。

実践3 数学科

1 ねらいにせまるための手立て

数学科では目指す生徒像を「言葉や式、図、グラフなどを用いて自分の考えを説明できる生徒」とし、以下の様な言語活動を手立てとした指導の工夫をした。

○数学的活動を通して

- ①自分の考えを数学的な表現を用いて伝え合う学習活動
- ②考えを比較・検討し、自分の考えを深める学習活動
- ③数学的に表現された事柄を読み解く学習活動

多様な考え方を交流させる場面、理由や根拠を伝え合う場面、自分の考えをもち、他者との比較・検討ができる場면을意図的に設定した。これらの実践により、研修主題「基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成」～振り返り学習を取り入れた学習指導を通して～に迫りたいと考えた。

2 実践例

実践1

① 単元名 「不等式の表し方」(1学年)

② 目 標

数量の大小関係を不等式で表すことを学び、それらの関係を不等式で表すことができるようになる。

③ 身に付けさせた資質・能力

思考過程を振り返って、考えのよさを見つけたり、一般化できる考えを見つけたり、自分の意見を他者に伝えることができる能力

④ 校内研修とのかかわり

課題解決に向けて、個々で考え方をもち、それぞれの言葉で考えの根拠や考えを述べさせ、グループで話し合う。話し合いの内容を基に他者の意見と自分の意見を比べることで自分の考え方をしっかりと振り返らせることで意見を深める。

⑤ 授業の概要

これまで習った等号や不等号を利用して、文章からどのような不等式が立てられるかを考えさせる。グループで意見交換や全体での考え方を通して、クラス全体で正しい答えを導くと共に、それぞれが自分の意見を振り返り、考え方を深める。

○展開

学 習 活 動	時間	支援・指導上の留意点
1 不等号の使い方の確認と本時の目標確認	5	・より大きい、より小さいの違いや表し方が正しいかを確認する。 ・以上、以下の違いについても確認する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「より大きい」「より小さい」と「以上」「以下」との違い学ぼう 「正方形だから、すべての辺に並んだ石の数は同じなので、基石の合計は $4n$ 個」と考えた。あなたは、この考えに賛成ですか、反対ですか。</p> </div>
<p>2 学習内容を知る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を示し、課題の意味が理解できているか確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 1 1 個 a g のおもり 5 個と、1 個 b g のおもり 3 個の合計の重さが 150g 以上あることを不等号を使って表してみよう。</p> </div> <p>35</p> <ul style="list-style-type: none"> ・式が立てられたら隣り同士で自分の意見を発表し話し合う。 ・その際「どうしてそうなるか」が説明できるよう声かけを行う。
<p>3 問題を把握と正答の解説。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの理由を自由に意見交換し、数人に発表させる。 <p>予想される意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $5a + 3b \geq 150$ $5 \times a + 3 \times b \geq 150$ ・ $5a3b \geq 150$ など <ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見との類似点や相違点がどこかを考えさせる。 <p>※その際自分の意見をノートにグループでの意見を黒板に残すことで自分との考えを比較させやすくする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意見を拾いながら解説を行う。
<p>4 応用問題への取り組み。</p>	<p>P,78 問 7 を取り組む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価項目 (○ : おおむね満足 ◎ : 十分満足)</p> <p>○文字式を使って数量の大小関係を不等式で表すことができる。</p> <p>◎保持式を使って数量関係を不等式で表すことができ、$<$と\leqとの違いをしっかりと区別することができる。</p> <p>< 数学的な見方・考え方 > 観察・学習プリント</p> </div>
<p>5 本時のまとめと宿題及び次時の確認</p>	<p>10</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習の習得状況の確認。 ○確認問題を提示。

⑥ 実践を終えて

○個人で考えをもつ、グループで説明しあう、全体で共有、比較・検討の流れは、根拠を明らかにするために有効であった。

○自分と他者との考えを比較することで自分の考え改めて確認し、整理することを振り返りの場面に設定したが、実際に振り返られていが見取りづらいので不向きであった。

○グループでの話し合いをすることで、普段は意見を言えない生徒でも積極的に発言することができたので、他者に伝える力が少しずつだが養えている。

○文章から数式を導き出す読解力を問題を通して向上していきたい。

実践 2

① 単元 1次関数 (第2学年)

② 目標

グラフからさまざまなことを読み取り、1次関数としてとらえ、読み取ることができる。
(数学的な見方・考え方)

③ 身に付けさせたい資質・能力

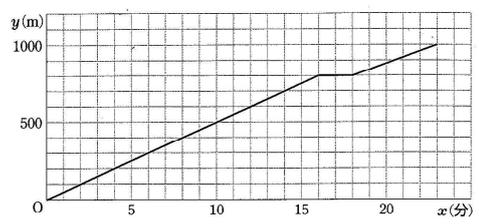
学習過程を振り返って、まわりの友達の考えの良さを見つけたり、自分の考えを説明できる能力

④ 校内研修との関わり

一つのグラフから多くのことを読み取り、班で意見を交換することで自分の考えを説明したり、友達の考えのよさを感じ、振り返りにつなげることができることを目指す。

⑤ 展開

学習内容	時間	生徒の活動	活動への支援	評価項目 観点・方法
1 課題を知る。	5	<p>「グラフを示し、わかること、気がついたことわかったことを書こう。」</p> <p>ある生徒の家から学校までの移動のようすを表していること、途中友だちと待ち合わせていること以外、細かなことは伝えず読み取る。</p>		
2 個人で考える	5	<p>予想される反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家から学校まで1000m ・23分で学校に着いている ・家から800m地点で待ち合わせ、2分間待っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・例を一つ早めに挙げる。 ・簡単なこと大勢が気づきそうなことから積極的に書かせる。 ・グラフからさまざまなことを読みとることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ●いろいろなことを読み取ることができる (プリント・観



<ul style="list-style-type: none"> ・休憩前と休憩後の速さ ・休憩前、休憩中、休憩後のようすを式で表すなど 		ことを伝え、さまざまな考 えを発表させる。発見や発 表をを賞賛する	察)	
3 班で考える	15	<ul style="list-style-type: none"> ・休憩前、休憩中、休憩後のようす変域を含めてを式で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・速さを求める方法やグラフのどこから分かるのかを発表させる。 	●発表されたことが理解できる (プリント・観察)
4 全体で考える 生徒から出されたこと によって指導内容を変 える。	20	<ul style="list-style-type: none"> ・後から分速 200 m の自転車で追いかける兄のようすをグラフにかき込んだり追いつく時刻を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表をよく理解できない生徒を中心に机間支援する。 ・生徒から出されたことをできるだけ多く取り上げる。 	
5 振り返り グラフからいろいろなこ とを読み取れる。	5			

⑥ 実践を終えて

○グラフから下位の生徒にも読みとることができるよい問題設定であり、いろいろなことを読みとることができた。

○グループ活動を取り入れたことで自分がみつけれないことをみつけることができた。○時間的な制約もあるが、振り返りを授業内で生徒が発表することができるのとよかった。

3 実践の成果

○グラフから色々なことを読みとることができた。下位の生徒にも読みとることができるよい問題設定だった。

○グループ活動を取り入れたことで自分がみつけれないことをみつけることができた。

4 今後の課題

○振り返りを授業内で生徒が発表することができるとうい。(時間的な制約もあるが)

○色々な事が読み取れるということが、生徒から出るとよかった。

○振り返りについては、話し合いでふりかえりをするとう結果が見えづらい。計算問題を通して理解できているかが一番わかりやすいので、もっと問題を通して行う。面をもっと明確な場面に設定し、生徒一人一人が見とれる振り返りを考える。

実践1 理科

1 ねらいに迫るための手立て

理科部会では目指す生徒像を「自分の考えをもって人に伝えたり、友達のことを聞いて比較したりしながら、自分の考えを深めていくことのできる生徒」と設定した。また、振り返り学習については「事象や現象を自らの言葉で表現する学習」と定義した。理科が対象とする言語には、科学用語、概念を説明する言葉、化学式やモデル、表やグラフなどがあげられる。「言語」を駆使しながら互いに意見交換し、自らの考えを深めていけるような場面を設定していくことで、学習内容に対する理解が一層深まるであろうと考えた。特に、授業終末部分での振り返り学習については、学習してきた内容を自らの言葉でまとめることでその内容をより深く理解することができ、基礎基本の定着にもつながると考える。

2 実践例

実践1

- ① 単元名 3年『身のまわりの物質』（第1章「身のまわりの物質とその性質」 本時は第7時）
- ② 目標 2力の角度がおおきくなると、同じはたらきをする1つの力に比べて、2力の合計は大きくなり、角度がちがう場合に、小さい角度の方が大きい力になることに気づくことができる。
- ③ 校内研修とのかかわり

この実践では、角度をもってはたらく2力の関係が分かるよう、導入で椅子を2本のひもを使って持ち上げる課題を示した。本時では、椅子に加わる力＝輪ゴムに加わる力、2人で引っ張る力＝バネばかりの示す値に置き換えて実験を行った。振り返り活動として、導入で示した課題を生徒に考えさせたことで、本時の活動を振り返り、自らの言葉で考察を書くことで科学的な見方ができたと考えることができる。

④ 授業の概要

学 習 活 動	時間	学習活動の支援、指導上の留意点 ※努力を要する生徒への指導の手立て ○おおむね満足の生徒への指導の手立て
・前時までの振り返り、力は合成したり分解したりすることができることを確認する。	5	・前時で示したモデルや図を提示する。 ・荷物を角度をもって持つことで重さはどう変わるのか考えさせ、本時の実験につないでいく。
めあて 角度をもってはたらく2力の実験をして、角度の違いによる力の関係を調べる。		
・本時の実験のめあてを確認する。 ・実験の説明を聞き、実験の概要を知る。 ・実験を行い、角度をもってはたらく2力について調べる。	5 15	・わかりにくい操作については投影装置を使い、視覚的に捉えやすいようにする。 ・あらかじめ装置を用意しておくことで時間短縮を図る。 ・2力の釣り合いを考えさせ、画用紙に記入できるよう班ごとに指導をしていく。 ・角度を変えて引っ張ったときの2力を、色を変えて記入できるようにする。 ・1Nの力を5cmで書くように統一しておく。
・実験結果をもとに、角度の違いによる力の関係を考察に書く。	10	・めあてをもう一度確認し、めあてに対する答えを書けるようにする。

○2力の角度が大きくなっていくと、加わる力は大きくなることに気づき、考察を書くことができる。
 ◎力の角度が大きくなっていくと、加わる力は大きくなることに気づき、考察を理由を含めて書くことができる。

【思考・表現】ワークシート・発言・発表

		<p>○理由を書けていない。 →予想を振り返らせる。実験結果を見て、具体的数値に着目させる。 ※考察文を書くことができない。 →めあてを確認させ、何を書けばよいか着目させる。本時にやったことを振り返らせる。・あらかじめ数名の生徒を見つけておき、発表させる。</p>
<p>・考えを発表させ、確認する。</p>	5	<p>・次の時間に分力や合力について学ぶことを伝える。</p>
<p>・本時の内容を振り返らせる。 ・次時の確認をする。</p>	10	<p>・二人で荷物を持つとき、小さな力で持つには角度をどうすればよいか考え、記入する。 ・数名に発表させる。 ・実際に重いものを2人で持ち上げてもらい、角度が小さい方が力が少なくすむことを確認する。</p>

⑤ 実践を終えて

実験の考察では、角度の変化によって2力の大きさが変わっていくことを多くの生徒が書くことができた。しかし、振り返り活動に導入の課題を出題したところ、正しい答えが分からない生徒がいた。力が大きくなることを、楽に持ち上げることができる、と捉えてしまう生徒が多かった。実際に持ち上げさせてみることで、角度が小さい方が楽であることが感覚的に分かったが、学んだ事を使って日常生活のことを考えるためには、その見方も伝えなければならないことがよく分かった。また、振り返り活動を評価項目として使えることも分かった。

実践2

①単元名 1年『身のまわりの物質』（第2章 「気体の性質」 本時はその5時間目）

②目標 二酸化炭素の特性を調べる実験を行い、既習の酸素、水素との違いを確認した後、それらを使って、重曹と食酢から発生する気体を調べる方法を考えることができる。

③校内研修とのかかわり

本時は、2章「気体の性質」の最後になる。未知の気体を調べる方法を考える中で、これまで学んできた気体の性質を自分の言葉で振り返られるようにした。本時の内容だけでなく、章全体の振り返りができるような展開ができると考える。

④授業の概要

学習活動	時間	支援・指導上の留意点 ※努力を要する生徒への指導の手だて ○おおむね満足 of 生徒への指導の手だて
<p>前時の学習内容を確認する。 ・酸素は、ものを燃やす ・水素は燃える</p>	5	<p>・酸素と水素の性質を振り返る ・本時でもう一つの気体を調べることを説明する</p>
<p>めあて 3つの気体の性質を知ろう</p>		
<p>石灰石と塩酸で発生する気体を調べる。</p>	20	<p>・石灰水を振らないように注意する。 ・塩酸を使うので実験中は保護眼鏡を着用させる。 ・短時間で実験できるよう道具を分けて用意する。 ・片付ける時は石灰石を回収するよう指示する。</p>

発生した気体が二酸化炭素であることを確認する。	5	・火が消えるのは酸素がないからであって、二酸化炭素固有の性質ではないことを確認する。
これまで学習した気体の性質を確認し、重曹と食酢で発生する気体が何であるか調べる方法を考える。(振り返り)	10	・身のまわりにある物質から発生する気体であることも紹介する。 ・「酸素なら、〇〇すると〇〇なる」という文を使って考えをまとめられるようにする。 ・個別で考えさせる。友達の考えなどはペンを使い、色分けする。
<p>評価項目 (知識、理解・ワークシート)</p> <p>○気体の性質を調べる実験をまとめ、気体を特定できる方法を書くことができる。</p> <p>◎ 気体の固有の性質を調べる実験を考え、気体を正しく特定できる方法を書くことができる。</p>		
		○リトマス紙や火の様子から二酸化炭素を特定している。 →二酸化炭素の固有の性質は石灰水の反応であることを確認する ※実験方法を選べない →教科書等を確認し、これまでやってきた実験を振り返らせる
考えを発表させ、演示実験で確認する。	10	・数名の生徒に発表させ、教師がそれを取り上げながらまとめを行う。

⑤実践を終えて

3つの気体の性質について、文章でまとめられるよう「〇〇すると〇〇なる」という、定型を提示してみたが、文章化できない生徒も見られた。キーワードを示したり、ヒントカードを渡すなど、文章化できる支援をもっと用意すれば良かったと思う。また、振り返りを章全体で行ってみたが、やはり、この授業で学んだことは何なのかを振り返られるようにしないと、授業のねらいも達成できなくなってしまったと感じた。

3 実践の成果

○本時に学んだことを、日常生活に置き換えて振り返ることで、生徒は学んだことをより身近なものと感じることができた。

○実際に自分が椅子を持ち上げることで、学んだ理論を実践し、実感することができた。理科は実験で経験することによって学んでいく教科の特性があり、日常生活の理解や道具への応用を通して実感し、理解を深める。理科の振り返りは、この実感の部分も大きいのではないかと考えられる。

4 今後の課題

○本時の内容には複数の数値変換が出てきたこともあって、考察が難しかった。数値の処理が理解できていない生徒も中には見られた。実験の考察の不理解が、そのまま振り返り活動にも出てしまい、振り返りで扱った課題に置き換えることのできる生徒が少なかった。実験の難度を考えた振り返りをしていく必要があると感じた。また、授業検討の当初段階では、振り返り活動の課題を考察としていた。しかし、この時点では考察と一緒にしてよいのか明らかではなかったので、今回はあえて別々にしてみたが、同じでもよいことが分かった。振り返り活動を評価として使えることを、次回に活かしていきたい。

実践5 英語科

1 ねらいに迫るための手立て

今年度の研修主題である「基礎的・基本的な内容を身に付けた生徒の育成～振り返り学習を取り入れた学習指導を通して～」に向けて、下記の2つの学習活動を英語科の振り返り学習と捉えて研修に取り組んできた。

①授業の終末部分で行う、新言語材料を用い、数文で自分の伝えたいことを相手と伝え合う学習

②単元や単元を貫いたゴールに当たる言語活動において、それまでの既習事項を用いて、自分の伝えたいことを相手と伝え合う学習

①と②の活動をスパイラルに継続的に行うことで、生徒は基礎的・基本的な内容を身に付け、さらに毎時間の学習の意味や現在の習得状況を確認でき、意欲と自信をもって学習に臨むであろうと考えた。

2 実践例

【実践例1】

① 本時の目標

○目的格の人称代名詞に慣れ、それらを用いて自分の好きな芸能人についての紹介文を言えたり、書けたりする。

(Unit8 イギリスの本)

② 伸ばしたい資質や能力

○目的格の人称代名詞について正しく理解し、用いることができる。

③ 準備 教師：教科書、芸能人の写真、ワークシート

生徒：教科書、ノート、ファイル、好きな芸能人の写真

④ 展開

学習活動	時間	支援・指導上の留意点
・あいさつ ・Warm up Crisscross	7	・既習事項を用い受け答えすることで、これまでの復習と、楽しく英語学習ができる雰囲気を作る。
・本時のめあてを知る。 ピクチャーカードを用いた教師の例を聞くことで、本時のキーセンテンスを知る。 ・主語と目的格について知る。	5 7	・生徒のよく知っている芸能人などの写真を用いることで、興味をもたせる。 ・本時のめあてを説明する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">This is Picotaro / Ayako Imoto.. <u>He /She</u> is a singer / a comedian . I like <u>him /her</u>.</div>
・いくつかの写真を用いて、パターンプラクティスをする。 ・生徒たちが自分で用意した写真を使って、ゲームをする。	5 8	・十分に口頭練習をし、本時のキーワードに慣れる。 ・簡潔に活動の進め方について説明する。 ・用意した写真は、自分の好きな芸能人や歌手なので、意欲的に取り組むよう伝える。 ・ゲーム中は、会話ができているか聞いて回ったり、言えてない生徒には一緒に英語を言ったりして支援する。

① 反応 A: 目的格を正しく使うことができる。		① 自信をもって活動するよう助言する。
② 反応 B: 黒板を見ながら質問できる。		② 何も見ずに活動できるよう助言する。
③ 反応 C: Do you know <u>he/she</u> ?		③ 黒板を見ながら活動するよう促す。
・振り返り ワークシートを使って目的格に慣れ、本時の活動で使った写真について英作文を書く。	16	・ワークシートに集中して取り組めるよう、時間設定をする。
・あいさつ	2	・本時の頑張りを賞賛し、him/her の確認をし、家庭学習のアドバイスをする。

⑤ 実践を終えて

本時は、目的格表現の学習1時間目であったが、生徒の身近な芸能人を例に挙げたことによって、生徒の興味を引き出し活動へとつなげることができた。何度もキーセンテンスとなる口頭表現を練習したことで、無理なく定着につなげることができたと思う。振り返りとして、①の生徒自身の好きな芸能人についての紹介文も、ほぼ全員が代名詞の目的格を正しく用いて表現することができたことから、ねらいの達成はおおむねできたと思える。

また、1学年という発達段階では、板書においては、大文字・小文字などの正確さも重要であると実感した。

常に明確なめやすを示し、それに沿った、ゴールへ向けた「言語活動」を確認することで、生徒自身も目的意識をもつことができる。クラスや個に応じためやすの設定も重要であると感じた。

【実践例2】

① 本時の目標

○現在完了形継続表現の用法を理解し、それを用いたクイズ作りができる。

(Program2 Volcanoes in Japan 単元のゴール「新しいALTの先生に沼田を紹介しよう」)

② 伸ばしたい資質や能力

○組み合わせの表現である現在完了形継続表現を正しい語順で書くことができる。

③ 準備 教師：教科書，好きな人（物）に関する物，自分クイズワークシート

生徒：教科書，ノート，ファイル，好きな人（物）に関する物

④ 展開

学 習 活 動	時 間	支援・指導上の留意点
○ Warm up 1	3	・既習の表現を用いたQA活動を行い、英語学習への雰囲気を作る。
○ Warm up 2 Merry Go Round Time 本日のお題「ゴールデンウィークの思い出」	5	・話す相手を指定し話す時間を確保することで、口頭表現に慣れさせ、即興性を身に付けさせたい。
○現在完了継続表現の用法を理解する。	10	・写真や絵を用いて、生徒の理解を助ける。 KS① I have been a fan of (Jackie Chan) for 30 years!

3 学年という発達段階にあっても、自然に何度もキーセンテンスを口頭表現し、定着につながったと思う。①の振り返り学習である、自分クイズ作りでも、ほぼ全員の生徒が現在完了形継続表現をもちいて正しく表現することができており、目標は達成することができた。

本単元のゴールは、今年沼田市に新しく迎えたALTの先生のためのプレゼンテーション「沼田の名所を紹介しよう！」であった。このゴール設定はリアルで、必然性があったと思われる。生徒は、まだ沼田に不慣れな先生のために、「オススメの観光スポット」だけでなく「ぜひ食べて欲しいラーメン」「安い店」など、生き生きとうれしそうに紹介していた。班毎のプレゼンテーション練習では、互いに教え合う姿も見られ、本番では、下位群の生徒もしっかりと表現できた。毎時間、シラバスを提示しながら、ゴールである「新しいALTの先生のために沼田の名所を紹介しよう」に向けた各時間の活動であることを確認することで、目的意識をもって意欲的に活動できた。毎年、生徒を取り巻く状況は変わるが、その時々々の生徒が必然性を感じるゴール設定をしていくことの重要性を改めて感じた。

3 成果

基礎的・基本的な内容を身に付けた生徒の育成を目指し、本校英語科における振り返り学習を、既習内容を用いて自分の伝えたい事を相手を伝え合う学習と確認し、以下の①②を実践してきた。

①授業の終末部分で行う、新言語材料を用い、数文で自分の伝えたいことを相手と伝え合う学習

②単元や単元を貫いたゴールに当たる言語活動において、それまでの既習事項を用いて、自分の伝えたいことを相手と伝え合う学習

①については、毎時間の終末部分で実際に自分の伝えたいことを表現し、振り返ることで新言語材料の定着が図れた。②では、毎時間①の活動で身につけてきた表現を、もう一度用いて、ある程度まとまった量の内容を相手に伝えることで、よりしっかりと基礎的・基本的内容を身に付けることができたと思う。

また、意欲面でも、興味ある単元のゴールに向かって①②の振り返り学習を計画的・継続的に行うことで、生徒は自信をもって主体的に学習に取り組もうとすることを実感した。

4 課題

- ・生徒にとって身近で、より魅力的な振り返り学習①の内容精選
- ・振り返り学習②において、その時々々の生徒の実態にあったより魅力的で必然的な単元のゴール設定
- ・シラバスの作成継続・内容改善
- ・シラバスのファイリング・英語部会内での共有
- ・他校英語部会との交流・シラバス等の共有
- ・Can-Doリストの活用
- ・小学校との連携

実践6 音楽科

1 ねらいに迫るための手立て

初めて日本古来の楽器である箏に触れる生徒たちが、意欲的に学習に取り組むことができるように、箏の音色や基本的な奏法を学び、唱歌や弦番号を唱えながら「さくら さくら」を仲間と協力して練習することにより、平調子による旋律に慣れ親しみ、曲の構成に関心をもつことができる。

2 実践例

実践

① 題材名 箏(そう)に親しむ～「さくら さくら」を弾こう～(1年)

教材名 「さくら さくら」

② 目 標 箏の基本的な奏法に関心を持ち、仲間と協力しながら意欲的に右手親指だけで弾くことのできる「さくら さくら」を練習しよう。

③ 校内研修とのかかわり

音楽科では、振り返り学習として授業の最後に「まとめの演奏をすること」、「学習カードを利用して学習内容を確認させること」を行っている。その手立てとして、まず、めあてや学習の流れを示すことで見通しをもたせる。つぎに、基本的な奏法や平調子を学び箏に対する興味・関心を引き出す。そして、仲間とともに弦番号を唱えながら、練習の時間を十分に確保している。自分の考えを伝え合ったり、分からないことを出し合ったり、教え合ったりすることで生徒一人一人が自信をもって表現活動に取り組むことができる場面を設定することにより、和楽器の響きと仲間とともに表現する楽しさや喜びを味わわせることができるものとする。

④ 授業の概要

(1) 学級 1年2組 (男19 女12 計31)

(2) 本時の展開

学習活動	時間	支援および指導上の留意点
○「さくら さくら」を歌う 歌詞・唱歌	5分	○旋律をはっきりと歌わせる ○唱歌に挑戦させる ○箏で旋律を伴奏することで、音色に関心をもたせる
○本時のめあてを知る		
めあて：奏法を知り、弦番号を覚えて、「さくら さくら」を演奏しよう。		
○姿勢と構え方を学習する ○基本的な奏法を学習する ■爪のはめ方 ■爪の当て方 ■弾く位置 ■薬指の支え ■親指の止め	10分	○学習プリントに本時の学習のめあてを記入させる ○箏に対して斜め45度になるように座る ○右手の親指に自分の爪とは反対側に角爪を付ける ○爪で上から押さえるように弾く ○竜角から2～3cm離れたところを弾く ○薬指を竜角の内側で支えて、親指を次の弦で止める
○平調子の練習をする 1弦～巾 1音ずつしっかり弾く 巾～1弦 1音ずつしっかり弾く	5分	○薬指の支えや親指の止めなど、基本的な奏法を心がけて1音ずつしっかり弾くといい音色になる ○順番待ちの生徒には、紙お箏と一緒に練習させる

<p>○「さくら さくら」弦番号を覚える</p> <p>○「さくら さくら」箏の練習をする</p> <p>①反応A ただ練習している生徒</p> <p>②反応B 弦番号を言いながら弾いている生徒</p> <p>③反応C 自分の番を待つ生徒</p>	20分	<p>○「さくら さくら」を弦番号で歌わせる</p> <p>○伸ばし2拍、4分音符1拍、8分音符半拍で数える</p> <p>○縦譜から、同じフレーズがあることに気付かせる (七七八ー七七八ー → 最初の2小節と4行目) (七八九八七七八ー → 2行目と3行目)</p> <p>○楽譜は、横譜・縦譜、自分が使い易い方を選ぶ</p> <p>①姿勢と構え方や基本的な奏法(爪の当て方・薬指の支え・親指の止め)に注意して練習するように助言する</p> <p>②弾く速さは、ゆっくりでも一定でよいことを助言する</p> <p>③弾く人に合わせて、班で弦番号を一緒に言いながら練習するように助言する</p>
<p>【ふりかえり】</p> <p>○姿勢や基本的な奏法に気を付けて、弦番号を言いながら、「さくら さくら」を弾く</p> <p>○学習プリントの記入をする</p> <p>■自己評価</p> <p>■わかったこと</p> <p>○次の時間の学習内容を知る 「箏のいろいろな奏法」</p>	10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○箏の音色や基本的な奏法に興味・関心をもち、意欲的に取り組むことができる。</p> <p>◎箏の音色や基本的な奏法に興味・関心をもち、弦番号を言いながら、意欲的に取り組むことができる (観察・ワークシート) 【音楽への関心・意欲・態度】</p> </div> <p>○学習プリントに自己評価・わかったことを記入させる</p> <p>◎とてもよくできた ○できた</p> <p>△少しできた ×できない</p> <p>○箏のいろいろな奏法に興味をもたせることにより、箏への関心をいっそう高めるようにさせる</p>

⑤ 実践を終えて

- 早く弾きたいという気持ちを高めさせ、学びに向かう姿勢がとてもよかった。
- 箏を弾く生徒も弾かない生徒もグループで協力しながら一緒に活動できた。

3 実践の成果

- 一人一人の箏に対する関心は高まった。
- 弦番号を言いながら演奏することができた生徒が多かった。
- めあては、おおむね達成することができた。

4 今後の課題

- 弦番号を言いながら弾く男子が少なかったため、ペア学習をさせても効果的である。
- 振り返りでは、自己評価の項目が多かった。項目数は5つくらいが適当である。
- めあて(関心意欲)に対する振り返りが課題である。
- 次の時間の取り組みについて記述させる。

実践7 体育

1 ねらいに迫るための手立て

全員が「自然災害による傷害の防止」に興味をもち、意欲的な取り組みができるように学習過程や発問の工夫をするとともに、自分の考えを広め、他者の考えを参考に考えが深められるように意見交換の場を設定していく。

2 実践例

実践

- ① 単元名 傷害の防止 「自然災害による傷害の防止」
 ② 目 標 地震が発生したときの傷害を防止し被害を最小限に食い止める方法を考えることができる。

③ 校内研修とのかかわり

本校保健体育科では、振り返り学習を「授業と単元の最後に、学習カードを活用して振り返ることで学習内容を確認させる」である。その手立てとして①めあてや学習の流れを示したり、提示したりして学習の見通しを持たせていく。②技能の図解や映像等の資料を提示し、技能のポイントやコツを分かりやすく説明していく③グループや全体で自分の考えを伝えたり、聴き合ったりする場面を設定し、自己評価につなげていく。

④ 授業の概要

(1) 学級 2年2組(35名)

(2) 本時の展開

学 習 活 動	時 間	学習の支援及び留意事項
1. 本時のめあてを知る。 《めあて》 地震の被害を最小限に食い止める方法を考えよう。 2. 阪神淡路大震災とノースリッジ大地震を比較し、どちらの方が被害が大きかったかを予想する。 【予想される生徒の意見】 阪神淡路大地震派 ・日本の方が国土が狭くて建物が密集している。 ・マンションやアパートが多く、地域のつながりが少ない。 ノースリッジ大地震派 ・カリフォルニアの方が大都市である。 ・人口が多い。 ・日本より地震の数が少なく、地震に対する対策ができていない。	10	○本時は、左記のテーマで、薄根中生全員を地震から守る方法を考えることを伝える。 ○難しく考えず、自分の思ったとおりでよいことを伝える。 ○どうしても書けない生徒には、「どちらかよく分からない」でもよいことを伝える。 ○途中で意見を変えてもよいことを伝える。 ○答えを言い、次の課題につなげる。 ★アメリカの方が国の災害対策が構築され、それが機能していたことをおさえる。
3. 被害の大きかった阪神淡路大地震で助かった人は、なぜ無事生還することができたのか考える。 (1) 自分の考えを学習カードに書く。 (2) 阪神淡路大震災の五つの教訓をもとにまとめる。	10	○知っていることや経験をもとに考えさせる。
4. 3でまとめをもとに、自分たちにできる地震の被害を防止したり最小限に食い止める方法をまと		○一般的な避難方法にならないように、場面の特徴等を考慮させる。

<p>める。</p> <p>(1) 班別に設定された場面で地震が起きた時、傷害を防止し被害を最小限に食い止める方法をまず各自で考え、次に班でホワイトボードにまとめる。</p> <p>【予想される生徒の反応】</p> <p>A：発生時だけでなく、事前や事後の対策を考えることができる。</p> <p>B：地震発生時の避難の仕方を考えることができる。</p> <p>C：方法を考えることができない。</p>	25	○全員の意見を聞き、同じような意見をまとめるように指示する。
<p>A：発生時だけでなく、事前や事後の対策を考えることができる。</p> <p>B：地震発生時の避難の仕方を考えることができる。</p> <p>C：方法を考えることができない。</p>	➔	<p>Aに対して：教訓を参考に、学校でできることを考えさせる。</p> <p>Bに対して：教訓①②③を参考にさせる。</p> <p>Cに対して：教訓①や友達の見解を参考にさせる。</p>
<p>【評価項目】 ○おおむね満足 ◎十分満足</p> <p>○阪神淡路大震災の教訓から、被害を最小限に食い止める方法を考えることができる。</p> <p>◎阪神淡路大震災の教訓と想定された場面の特徴を考えて、事前や事後の対策を考えることができる。</p> <p>〔健康・安全への思考・判断〕（観察・ワークシート）</p>		
<p>(2) 最後にクラス全体でそれぞれの方法を確認する。</p>		
<p>5. 本時のまとめをする。</p> <p>【振り返り】</p> <p>・学習プリントに記入する。</p>	5	○地震が起きたときは、慌てず身を守り、状況に応じて安全に行動することを押さえる。

⑤ 実践を終えて

- ・阪神淡路大震災やノースリッジ大震災の資料が準備され、話し合い活動がスムーズに行えた。
- ・ねらいの提示から振り返る内容を統一することができた。

3 実践の成果

- ・振り返り用の学習カードの質問が良く、意見がよく書けていた。
- ・班別に場面設定したことで、意見にバリエーションがでてよかった。

4 今後の課題

- 振り返り時間の確保。
- 学校だけの設定だけでなく、家庭での場面や普段からしておくことの対策まで広げられると良かった。

Ⅲ 研究の成果と課題



1 研究の成果

(1) 各教科における振り返り学習と目指す生徒像について<資料1>

- 目指す生徒像を「既習の知識・技能を活用し、主体的に事象の考察や課題解決を行ったり、考察結果や解決過程を筋道立てて説明したりする活動を通して、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒」とした。各教科において「振り返り学習」と「目指す生徒像」を設定した。一人一授業を実践する中で修正を加え、明確にすることができた。
- 授業のめあてを示し、振り返り学習でめあての達成度を確認する学習の流れの共通理解を図った。振り返り学習については、実践を通してその形がはっきりしてきた。

(2) 実践を通して

- 実践を進める中で、薄根中学校としての「振り返り学習」の在り方を明らかにすることができた。
 - ・授業の終末で振り返りを行うこと
 - ・授業のめあてに対する振り返りを行うこと
 - ・振り返りを評価としてもよいこと、などである。
- めあてを授業の導入で提示したことにより、1時間のやるべきことが生徒に明確に伝わったことで、課題解決的な学習過程による授業の充実につながり、基礎的・基本的な内容の定着を図るために有効であった。
- 振り返り学習で生徒の実態を見取ったことを、次時の活動に生かすことができ、指導と評価の一体化の面で効果があった。

(3) 実践における生徒の変容

- 振り返り学習を実施したことにより、知識の定着が見られた。
- 振り返り学習ができたときは、生徒が自信をもって活動をする姿が見られた。
- 振り返り学習を授業の終末に繰り返し行った結果、習得した内容を盛り込んで本時のまとめを書けるようになってきている。
- 次時の学習に入る際に、既習内容が分かっているため、すんなり授業に入れるようになった。また、発展的な学習に取り組める機会が増えた。

(4) 各教師の授業実践の成果と課題、改善策<資料2>

- 教師一人一人が、自分の実践を振り返り、授業実践の成果と課題、次の授業へ向けての改善策をまとめた。今年度の研修の成果を来年度の授業につなげたい。

(5) 学習習慣等

- 学習習慣の定着の為に、月1回程度の学年・学級の時間を確保し、学習ノートの指導や補充学習を行ってきた。学習ノートの取組により、家庭学習の習慣が身に付きつつある。継続して定着を図ることが課題であり、基礎的・基本的な内容を身に付けられるように支援を工夫していきたい。
- 参考 家庭学習への取り組み状況
 - H. 2 7 7月 家庭学習を1時間以上している生徒80%、ほとんどしない生徒3%
 - 1 2月 家庭学習を1時間以上している生徒83%、ほとんどしない生徒3%
 - H. 2 8 7月 家庭学習を1時間以上している生徒69%、ほとんどしない生徒3%
 - 1 2月 家庭学習を1時間以上している生徒74%、ほとんどしない生徒5%

(6) 授業実践・研究授業・授業研究会の工夫

- 拡大教科部会を中心に指導案検討・授業研究会を行い、手立てを共有し授業の成果や課題を日常の実践に生かすことで、教科を越えて研修を進めることができた。
- 実践授業のよかったところや課題を付箋に書いたものをまとめた資料を配付したことで、素早く、分かりやすく、伝え合うことができた。
- 授業実践から校内研究授業、要請訪問Bの研究授業と積み重ねてきた成果を生かすことができた。

2 研究の課題と解決に向けての取り組み

(1) 課題

- 振り返り学習を研修とした最初の年度であったので、振り返り学習の定義を見いだすのに時間がかかってしまった。生徒への効果を実証するためには今後も継続的な取り組みが必要となる。
- めあてを示し生徒に目的意識をもたせ、めあてを達成するための指導内容を工夫し、めあてに即した振り返り学習をすることで定着を図る。
- 各教科での、観点ごとの様々な振り返り学習の実践を通して、生徒に有用な手だてとなるよう振り返り学習を確立していく。
- 通常の授業における振り返り学習を充実させていく。

(2) 課題解決に向けての取組

- 振り返り学習を継続して、実践を重ねていく。
- 各教科で示した「伸ばしたい資質・能力」を明確にした授業づくりを進めていく。また、実践を通して各教科の振り返り学習について見直しが必要なものを修正していく。
- 日頃の授業においても「めあて」に即した「振り返り」について意識した指導をしていく。
- 授業実践で学んだ手立ての工夫や技能を共有し、日常の実践に生かす。
- 各校で実践されている「振り返り学習」の良さを本校の実践に取り入れていく。

資料1 各教科における目指す生徒像及び振り返り学習 H28 年度 沼田市立薄根中学校

教科	<p>目指す生徒像 ○既習の知識・技能を活用し、根拠や理由を明確にして課題を解決することを通して、 基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒</p> <p>振り返り学習 ①授業の終末に行う。 ②本時のめあてに対する振り返りを行う。 ③授業で分かったことだけでなく、まだよく分からないことも書く。</p>
国語	<p>○他者の考えを知り、自分の考えと比較することで、違いや良さ、足りない部分に気づき、 自分の考えを深めたりまとめたりする生徒</p> <p>①その日の学習内容を次時にどのように活かすかを、自分の言葉で書いたり話したりする。 ②自分の考えをレポートや作文に書き表す。また、自分の言葉でスピーチしたり討論したりする。 ③獲得した知識などから、興味関心を広げたり自分の表現に活かす方法を考えたりする</p>
社会	<p>○教師や生徒の話をしっかりと聞いて、様々な社会的事象を組み合わせて自分の意見・ 考えをもてる生徒</p> <p>○社会に対する関心を高くもち、資料をもとに読み取り考えたことを、わかりやすく言葉 や図表を使って振り返ることができる生徒</p>
数学	<p>○問題意識を持って素早く、粘り強く授業に取り組み、最後まで考える生徒</p> <p>○数学的活動を通して ①自分の考えを数学的な表現(式や図、グラフ)を用いて伝え合う学習活動 ②考えを比較・検討し、自分の考えを深める学習活動 ③数学的に表現された事柄を読み解く学習活動</p>
理科	<p>○自分の考えをもって人に伝えたり、友達の考えを聞いて比較したりしながら自分の考え を深めていくことのできる生徒</p> <p>○事象や現象を自らの言葉(科学用語、化学式やモデル、図、表やグラフ)で表現する学 習</p>
英語	<p>(振り返り学習②について)</p> <p>○1年・・・自分や身の回りの出来事などについて、既習事項を用いて相手と伝え合うこ とができる生徒。 ○2年・・・事実関係を伝えたり、物事について自分の考えを理由を含めて、相手と伝え 合うことができる生徒。 ○3年・・・日本の伝統や学校紹介などあるテーマについて、筋道を立てて、理由も含め て自分の考えを伝え合うことができる生徒。</p> <p>①新言語材料を用いて、数文で自分の伝えたいことを相手と伝え合う学習 ②単元や単元を貫いたゴールに当たる言語活動において、既習表現を用いて、自分の伝 えたいことを相手と伝え合う学習</p>
音楽	<p>○友達と意見を交わし合い、豊かな表現を求め、表現活動に取り組む生徒</p> <p>○曲の特徴をとらえ、音楽的な要素と結びつけて考えられる生徒</p> <p>○前時の復習として、ポイントを確認する。 ○楽曲から聴き取ったことや表現したいことを、音楽的な要素と結びつけながら考え、 自分の言葉で記述する。</p>
保健 体育	<p>○仲間と協力して、課題に応じた解決方法を見いだせる生徒</p> <p>○運動の技能の向上や、体方向上における自己やグループの課題を、見いだしたり伝え合 ったりする活動 ○課題を解決するための解決方法を、見いだしたり伝え合ったりする活動。</p>
道徳	<p>○自らを律する節度と、温かさをもって、人と接することができる豊かな心を身に付けた 生徒</p> <p>○授業の終末で、道徳の授業を通して確認できた自分の意見や友達の意見を振り返り、自 分の言葉でまとめる活動。</p>

資料2 H 2 8 一人一授業「今年度の授業の成果と課題、来年度への改善策」
沼田市立薄根中学校

	成 果 (明らかになったこと)	課 題	課題解決に向けての改善策
国語 (西本)	<p>○ワークシートが工夫できており、展開、めあてがまとまっていて流れがスムーズだった。</p> <p>○指示や発問が明確で、生徒が意欲的に活動できていた。</p> <p>○はじめと終わりの振り返りの時間については、有効であった。前時と本時の関連づけと、本時と次時の関連づけがなされていた。</p>	<p>○中間の振り返りは必要なかった。振り返りになっていなかった。</p> <p>○グループでの話し合いの形がうまくできておらず、1対1のようになってしまった。</p> <p>○グループ学習のしかたに工夫が必要だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り像を明確にしていく。 ・グループ活動の基本的なやりかたをマニュアルなどで示す。 ・グループ活動の人数などを工夫する。
国語 (武捨)		<p>○授業のめあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてが曖昧だった。 ・授業の初めにめあてをきちんと確認し、意識して書き始められるようにすべきだった。 <p>○授業中の指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書くときの姿勢を注意したほうが良かった。 <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてが曖昧だったため、本時の活動に即した振り返りができていなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の授業に即しためあてを設定し、生徒一人一人が意識できるよう、授業の初めにきちんと確認する。 ・授業のめあてに沿った振り返りができるよう、授業の展開や振り返り方を工夫する。
社会 (宮内)	<p>○ICTの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトを使うことで導入の仕方や目当ての提示などが工夫できた。 <p>○支援の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が意欲的に調べていた。→やることが明確だった。 ・落ち着いた話しぶりで聞きやすい発問、指示だった。 <p>○ワークシート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの作りが自分で調べたことをたくさん書けたのは良かった。 ・ポイントの言葉について、全員が記入できるようになっていい。 <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間がしっかり確保できた。 	<p>○授業のめあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・めあてをしっかりと確認してから作業に入れるとよかった。 <p>○振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの時間が取れて良かった。 ・口頭だと数名だけに限られてしまう。他の方法でも良いと思う。 <p>○調べ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「違い」より語句の説明が多かった。 ・1人1人が調べると時間がかかり、あまり調べられない生徒がいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返り像を明確にしていく。 ・全員をどう見取るかという視点を必ず持つ。 ・振り返りの形を工夫する。

社会 (遠峯)	<p>○ICTの活用が良かった。</p> <p>○授業の終末部分で、本時で学んだ需要と供給の関係を用いて、作りすぎたキャベツ農家が売らずに廃棄してしまう理由を現象を説明することは、振り返り学習に有効であった。</p>	<p>・具体的な社会的事象を説明させる活動は、振り返り学習には有効であるが、本時で学習した需要と供給の関係だけでは解決できない内容も含まれていた題材であった。</p>	<p>授業における見通しを立てる活動と振り返る活動が対になるように、授業を構想する。</p>
数学 (見城)	<p>○グラフから色々なことを読みとることができた。下位の生徒にも読みとることができるとあるよい問題設定だった。</p> <p>○グループ活動を取り入れたことで自分がみつけれないことをみつけることができた。</p>	<p>○振り返りを授業内で生徒が発表することができるとよい。(時間的な制約もあるが)</p> <p>○色々な事が読み取れるということが、生徒から出るとよかった。</p>	
数学 (上山)		<p>○指導の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間配分をしっかりと考える。 ・日常生活に関連性をもたせられるよう、より具体的な例をあげる。 <p>○生徒の活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒自身に黒板やホワイトボードを利用して活動する場面をつくるべきであった。 ・生徒の活動にけじめをしっかりとつけさせる。 <p>○ふりかえり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いでふりかえりをすると結果が見えづらい。 ・計算問題を通して理解できているかが一番わかりやすいので、もっと問題を通して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの場面をもっと明確な場面に設定する。 ・生徒一人一人を見とれるふりかえりを考える。 ・生徒の活動方法をしっかりと考える。
理科 (内田)	<p>○キーワードを使っただけの振り返りだったので、生徒が文章化してまとめやすくなっている。</p> <p>○振り返りは、本時の学習内容を表現できるものがよい。単元の振り返りは難しい。</p>	<p>○キーワードなどを提示しすぎると生徒が文章化する力が育たなくなる。</p> <p>○どのような形で生徒に振り返らせるか、教師が考えておかないと生徒はうまくまとめることができない。</p>	<p>○生徒の実態を踏まえ、必要最小限のキーワードになるようにする。</p> <p>○授業のねらいに対応した振り返りになるように授業展開を考える。</p>
理科	○本時に学んだことを、日常	○本時の考察が難しく、	○実験の難度を

(鈴木)	生活に置き換えて振り返ることで、学んだことをより身近なものとして捉えることができた。 ○実際に自分でやってみることで、学んだ理論を実践し、実感することができた。	振り返りに置き換えることのできる生徒が少なかった。 ○考察と振り返りが同じでもよかった。	考えた振り返りをしていく。 ○振り返りを評価に使うことができなかった。
英語 (藤井)	○学習内容を用いて、自分の伝えたいことを相手と伝え合う活動、という英語科の振り返り活動として、最後のプリントでの関係代名詞を使った表現は、概ねできていた。 ○聞く・話す・書くなどの各領域の活動がバランス良く取り入れられていた。	○見通しを持たせる活動と振り返り活動が、対で行えるようにする。	○シラバスの作成と、授業の初めのめあての確認を継続していく。
英語 (坂本)	○本時の学習内容を用いて、自分の好きな人について簡単な紹介文を書く活動において、主格と目的格を使い分け表現するめあては概ね達成できた。 ○生徒の身近にある人物の写真を使ったことで、より実用性のある表現に近づけた。	○日本語と英語の言い回し方について、しっかり説明する。	○授業の初めの明確なねらいの提示と、それに沿った授業をする。
体育 (篠崎)	○めあてが身近な学校生活から考えられる内容だったので活発な意見を出すことができた。 ○班ごとに場面を代えて考えさせたことで、バリエーションが出てよかった。	○振り返りの時間が短くなってしまった。 ○家庭での「普段からやっておくこと」「発生時の行動」も考えさせたかった。	○導入の時間を短縮させて時間を確保する。 ○場面設定の中に「夕ご飯の最中」や「部屋に一人でいるとき」なども入れていく。
音楽 (岩崎)	○一人一人の箏に対する関心は高まった。弦番号を言いながら演奏することができた生徒が多かった。めあてはおおむね達成できた。 ○早く弾きたいという気持ちを高まらせ、学びに向かう姿勢がとてもよかった。 ○箏を弾く生徒も弾かない生徒もグループで協力しながら一緒に活動できた。	○弦番号を言いながら弾く男子が少なかったため、ペア学習をさせても効果的である。それぞれの爪のあて方。 ○振り返りでは、自己評価の項目が多かった。 ○めあて（関心意欲）に対する振り返りが課題である。	○ペア学習を取り入れたり、 ○個人個人への声掛けをする。 ○自己評価の項目を5つ程度にする。 ○次の時間の取り組みについて記述させる。

家庭学習の手引き

【学習環境を整えよう】

- 決まった時間に決まった場所で毎日こつこつ取り組もう。
- すぐに取り組めるように、学習場所の環境を整備しておこう。
- 集中して取り組もう。テレビやラジオなど「ながら勉強」はやめよう
- 情報機器やマンガなどは、目に触れない工夫をしよう。

授業で勉強した内容は、早めに復習してしっかりと身につけよう。



そのために…

- ノートとプリントでその日の授業を振り返ろう。**重要事項・重要語句**はしっかり理解しよう。余裕のある人はさらに詳しく調べて見よう。
- ワーク、問題集、テストを繰り返しやろう。
- わからないときは教科書を見たり、調べたりしよう。それでも分からない時は**学校で質問**しよう。

【各教科の詳しい勉強方法】

国語	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字練習・その後自分でテストをしよう。 ○本文の音読練習をしよう。 ○古文・①古文を視写しよう。②歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直そう。③古語の意味を確認しよう。④現代語訳してみよう。 ○漢詩・漢文・①訓読文を書き下し文にしよう。②歴史的仮名遣いを現代仮名遣いになおそう。③漢文特有の表現を確認しよう。④現代語訳してみよう。 	社会	<ul style="list-style-type: none"> ○テスト対策（まとめ方の一例） ・地理は、白地図に自然地名や気候、産業などを書き込み、事象の特色や関連を整理しよう。 ・歴史は、関連図を書き、各時代の特色や事象の関連を整理しよう。 ・公民は、しくみや物の流れなどを図に書き、政治や経済等に関する事柄を整理しよう。 ○こんなことができると・・・ ・新聞やニュースを、1日1回は読み見たりするにしよう。 ・あれと思ったら地図帳で場所を確認し地図帳と仲良しになろう。
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○その日の授業内容を振り返ろう。また問題練習をたくさんこなそう。 ○丸付け、解き直しまでが勉強です。 	理科	<ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験の目的や方法、考察等を中心に、ファイルを見直し、ノートに書き写してみよう。
英語	<ul style="list-style-type: none"> ○キーセンテンス、新出単語をBノートに練習しよう。その後自分でテストして、正しく書ければOK。 ○本文をスラスラ読めるまで、音読練習しよう。 ○本文を訳してみよう。分からなければ、Aノートを見て確認しよう。 ○学習した日のうちに、その内容をワークで復習しよう。 		



参考にして

家庭学習を進めて行こう！